

大王崎灯台

1927 年に大王崎灯台が建てられる前は、志摩半島の東南端にある、この切り立った危険な岬は船員たちに恐れられていました。1978 年に大規模に改修され、2004 年には自動的に波を監視する電波探知機が設置されましたが、灯台の構造は当初のままです。安乗崎灯台と共に、ここは日本に 16 しかない見学者が頂上まで昇ることができる灯台の 1 つです。

大王崎から見る日の出は美しく、元旦に人気の場所となっています。曲がりくねった路地、入り組んだ海岸線、白亜の灯台、迫力のある海の景観などが明治時代から日本全国の芸術家を魅了し、大王の町は「絵かきの町」として知られています。現在は、夏休みになると、多くの美大生や芸術家を見かけます。

大王の町では、波も風もとても強いです。そのため、この地域では石垣を建て、風雨を防いできた長い歴史があります。古い壁はセメントを使わずに建てられました。石をひとつずつ選定して、隙間がないように並べていったのです。大慈寺の周囲にある石垣が良い例で、この寺はアジサイと桜でも有名です。